



GERO-Kamihara

下呂地域

memo	
氏名	中桐 由起子
年齢	33歳
出身地	各務原市
現住所	夏焼
前住所	各務原市
着任日	平成26年4月1日

●悩んだ日々

下呂地域上原地区。下呂温泉は知っていました。上原のことは、協力隊の募集で初めて知りました。もともと地域おこしには興味がありました。その道のプロではない私に何が出来るのか、本当にこの土地でやっていたらいいのか、はじめは不安な毎日を送っていました。



地域の方に教わりながら「よし巻きだんご」作りを体験＝夏焼、中組公民館

上原の地域おこしをどう進めていけばいいのか。進めたいけど自分の無力さを感じた

り、知り合いも友達もいない上原で、自分の思いや話をどうやって伝えていけばいいのか、悩む日もありました。

●きっかけとなった「カミハラ通信」

そうしたなか発行を始めた手書きの「カミハラ通信」。毎月、上原全戸に配布していただき、今も続けています。これがきっかけになり、徐々に地域の皆さんと話せるようになりました。今は「あの人の聞いてみよう」「教えてもらおう」と自分で動くことができるようになり、孤独感もなくなってきました。そして、そうしたことがまた新しい発見を与えてくれます。

1年目は、思うような活動ができませんでしたが、2年目となり少しずつ前へ進めていると実感しています。

●地域とのつながり

今、力を入れて取り組んでいるのは、小さな「農園」です。「育てること」と「食べることを結び付けてできることを考えていきたいと思っています。休耕地だったこの農園を耕すときやハウスにビニールを張る作業など地域の皆さんと一緒にを行いました。

最近では、農園で作業をしていると近所の人たちが、立ち寄ってくださり、一緒に草取りをしたり、畑の真ん中でお茶を飲みながらお話しもしています。こういうところにとっても上原らしさ、温かさを感じています。また、よそから上原にわらび採りに来られた方が協力隊に興味をもち、応援のメールもいただけるようになりました。そして、上原の活動団体「上原



慣れない農機具にも挑戦＝夏焼

プロジェクト」が目指すもの自分の思いが互いに刺激し合えるようになってきたことも感じています。

●「カミハラ」が好き！

次にしたいことは、空き家の活用です。具体的な取り組みを進めたり、地域にその気運が高まればと思っています。また、引き続き自然を通して人と関わること、子どもたちが自然の中で遊ぶ体験をすることやそれらを運営するための財源の仕組みも考えていきたいです。今はまだ、自分を協力隊員として見られていると思いますが、一日も早く、一人の住民として見てもらえるようになります。

カミハラが好きです。まだまだ字ぶこばかりですが、上原の自然と地域の方が教えてくれることを大切にしながら地域の皆さんと、地域おこしを進めたいと思います。

上原に なくてはならない人

彼女は着任してすぐに上原地区全戸へのあいさつ回りをしてくれました。また、白雲座歌舞伎に出演するなど地域の行事に積極的に参加し、地域に溶け込もうとする努力を今も続けています。地域の皆さんもそんな彼女のことを慕っているようです。

一年がたち、ぼんやりしていた私たちの目標が見えてきました。隊員として、地域の支えとなっていたたくとも自らの夢の実現に向け、全力で取り組んでほしいと思います。上原は彼女を必要としています。ぜひとも一人の住民として、上原に定住していただき、私たちと共に上原を盛り上げてほしいと思います。



中桐隊員受け入れ団体「上原プロジェクト」代表の田口幸吉さん



MAZE

馬瀬地域

memo	
氏名	小川 智哉
年齢	27歳
出身地	中津川市蛭川
現住所	馬瀬惣島
前住所	京都府京都市北区
着任日	平成26年7月1日



地域の運動会に初めて参加 = 馬瀬中切、馬瀬小学校グラウンド

●不安だった第一歩

私は、もともと地域おこし協力隊に興味がありました。隊員募集を探していたところ、馬瀬が目にとまり、一度足を運んでみました。美しい景観を残している「田舎」だけでなく、生活するには便利そう…。そして、川と空気がきれい。これが第一印象です。着任してしばらくは、とに



操法大会に向けた訓練 = 馬瀬惣島、馬瀬憩いの広場

かく馬瀬をくまなく歩き回り、地域の皆さんと話をしたり、いろいろなことを教えていただきました。しかし、自分と同世代の人と関わりをもつ機会が少なく、相談相手がいなかったことが、一番の悩みでした。

●衝撃！馬瀬グルメ

馬瀬の生活にも慣れ始めた頃、消防団に入団しないかと誘われ、入団しました。入団してみると、同世代の方々と知り合いになることができ、最初の悩みは解消することができました。

馬瀬に来て、うれしかったことは、「漬け物」がすごくおいしいことです。今まで食べていた漬け物は何だったのだろうかと思ってしまうほどおいしいです。他にもあります。「アジメドジョウ」です。このう

●新たな挑戦

まごには、まさに衝撃でした。今取り組んでいることは、いろいろなありますが、馬瀬地方自然公園づくり委員会が行う馬瀬里山ミュージアムもその一つです。馬瀬の自然や里山集落を生かした地域づくりを進め、交流人口を増やして、地元野菜の販売などに結びつけ、地域に還元していく考え方に賛同しており、この取り組みを進めています。

他にもヤーコンというアンデス山脈地方原産の野菜で漬け物やジャムを馬瀬の特産品として商品化できないか地域の皆さんと模索しています。きっかけは、家庭で作られたものを食べてみたら、意外においしかったという小さな発見があったからです。こうし

●馬瀬の皆さんとともに

馬瀬の情報発信にも力を入れています。馬瀬出身の方や馬瀬に関わりを持っていた方から、「今は、遠く離れたところにいるが、馬瀬のようすをみることができ嬉しく思う。協力できることがあれば、協力したい。」といったメールをいただきました。本当にうれしかったです。

これから取り組みたいことは、空き家を生かして何かしたいと思っています。その何かは、今はまだ、ぼんやりしていますが、空き家はもう借りています。人と交流することが大好きです。もっともっと馬瀬の皆さんと交流を深めていきたいです。

一緒にになって地域おこし

彼は、地域の活動に意欲的に参加し地域に深く関わろうとしています。その姿を見て、自分も負けてはいられないというような気持ちになっていく人は少なくないと思います。協力隊の目的の一つは、その土地に定住してもらうことです。単に人口が増えれば良いということではありません。地域の皆さんと一緒に活動することが大切です。

2年目に入ったので、具体的なビジョンを見つけてほしいです。彼に協力していただきながら、また、私たちも彼を支えながら、地域おこしを進めたいと思います。



小川隊員受け入れ団体「馬瀬地方自然公園づくり委員会」の小池永司さん